

私は、市政改革みんなの会を代表し、議案第 1 号・平成 23 年度各会計歳入歳出決算認定につき反対、その他の議案については若干の留意点はあるものの、賛成の立場で簡潔に討論を行います。

各会計決算を不認定とする理由は、特別委員会での審議において、遺憾ながら理事者から適切な答弁が得られない事項が多数あり、その背景には事業失敗に関する責任放棄、問題の先送り等、市民自治の美名からかけ離れた市政執行の無責任体質が垣間見られるためであります。

主な問題点を、時間の都合上、4 点に絞って申し述べます。

問題の第 1 は、観光文化局所管の藻岩山ロープウェイ再整備事業です。

当初から計画を疑問視する市民の声を無視して事業を強行した結果、案の定、利用者は目標を大幅に下回り、9 月の売上は目標比 33% と破滅的な数値を示しています。

にもかかわらず、委員会で理事者は「目標が高すぎた」が「収支への影響はない」と強弁し、ずさんな経営計画に対する反省の弁はなく、目の前の経営危機を打開する具体的行動どころか、改善への意欲すら伺うことは出来ません。

もし藻岩山ロープウェイの経営にそんな余裕があるならば、大人 1700 円と高すぎる運賃を引き下げてください。

山頂の建物内では、高級レストランの中でしか眺望を楽しむことが出来ない施設の欠陥を改め、子ども達やお年寄り、登山客や観光客に開かれた身近で楽しい藻岩山を市民に返してください。

問題の第 2 は、教育委員会の札幌市 P T A 協議会に対する補助金の支出です。

P T A 協議会の事務局長 11 人は全員が学校長 O B であり、補助金は小中学校の単位 P T A には届かず、校長再就職の賃金の一部に化けています。

その見返りとして、P T A 協議会には役員 4 名に教頭登用試験の面接官の役割を提供していますが、一保護者である P T A 役員が、教員人事へ口出しすることは、他の保護者との公平性や登用試験の透明性確保の観点から問題であり、止めさせるべきです。

そもそも補助金を受ける立場のPTA協議会が補助金支給決定権者の人事に介入できる仕組み自体が主客転倒で順番が逆転しており、教育委員会とPTA幹部の癒着の実態を象徴しています。PTA協議会は24年度から開始した共済事業で莫大な利益を上げており、その収支を点検の上、来年度の補助金支給の必要性を検証するよう求めます。

問題の第3は、経済局の新産業創出事業における不適切な事業執行です。

さっぽろコンテンツマーケット創出事業では約2500万円の事業費で、映像コンテンツの取引市場を開設したものの、一年間で1件の事業成果も無かったことが明らかになりました。

ロケーション受入環境整備事業では、約2200万円の事業費で、実施されたロケはたったの3件ですべて札幌市外。札幌市内で実施されたロケは1件も無し。

業務委託先に対する成果物の確認も行わないまま、役務履行検査を「合格」としていました。

さらに緊急雇用創出事業として若者の新規雇用を促すべき事業であるにもかかわらず、委託先業者が関係者の親族を縁故採用していたことが発覚。

これらの事実が判明した後も経済局は言い訳に終始するのみで、これらを是正する措置を拒んでいることは、行政への市民の信頼を失墜せしめる、極めて重大な問題と考えます。

委託業者選定、契約書締結、履行確認のいずれにも明確な瑕疵が認められ、経済局は貴重な市税を預かるものとしての責任と自覚を再認識するよう求めます。

問題の第4は、職員の過剰な時間外勤務の実態です。

平成23年度、1年間の時間外勤務が1000時間を超える職員が少なくとも6名おり、その中の一人は年間2000時間を超えていることが分かりました。

2000時間超えというと厚生労働省の過労死ラインの二倍を超える数字です。

私は今朝その職場を訪ねたところ、深夜残業の疲れか8時45分を過ぎて出勤する職員も散見され、管理職は職員の退庁時間を現認せずに、時間外の自主申告をそのまま受け入れている実態が分かりました。

一方、他の部局の職員からは、「残業時間を付けさせてもらえない」とサービス残業と不公平さを訴える声が数多く、私の元にも届いています。

人員配置の見直しと全庁的な勤務管理の適正化により、職員が人間らしく生活できる職場づくりが必要です。

その他、決算特別委員会で指摘した多くの問題はここでは繰り返しません。理事者にあつては我が会派の指摘を精査の上、今後の市政執行に生かすことを求め、私の討論を終わります。